

元高砂市議 緑の党グリーンズジャパン会員 **緑の党** Greens Japan

[自宅] 兵庫県高砂市荒井町新浜 2-19-9

[事務所] 兵庫県高砂市荒井町御旅 1-5-6

Tel 079-444-2343 Fax 444-2418

E-mail:iokuioku3@gmail.com

http://ioku3.sakura.ne.jp 新ブログも

ツイッター：@ioku3 Facebook・LINE: 井奥雅樹

「井奥まさき」
で web 検索を

井奥まさきの市政ニュース

2014. 7 (月刊+ : 7月下旬号 通算 90号)

政務調査費 情報公開請求で3週間たってようやく公開 制度改正が必要

高砂市議会への政務調査費の情報公開請求

7月8日に情報公開請求

7月18日に開示延長の通知

(「15日間では公開できません」との通知)

3週間 1枚の書類も公開されず

7月30日時点でようやく公開

あの号泣記者会見ですっかり有名になった「政務調査費（現在は政務活動費）」ですが、高砂市議会にも存在します。ただし、例の県議の所属する兵庫県議会の月50万円に対し、高砂市議会は月2万5000円です。規模も違いますし、ルールも異なります。

ただ、市民のチェックは必要と

思い、高砂市議会に対して3年分の全議員の全領収書を「情報公開請求」を行いました。7月30日に3週間たってようやく「7月31日に開示」の連絡がきました。それまでは「15日間では開示できません」という通知や連絡が来ただけでした。市民が関心を持った時に即座に対応できない現在の市議会の情報公開制度に疑問を感じます。個人情報保護等はあらかじめ処理しておいて公開に備える、そもそも請求されなくても「毎年6月に公開（ネットなど）」といった対応が必要です。

元高砂市議 井奥まさき

しかもこの「開示延長」の決定ですが、複数の議員に確認したところ、最大会派の議長らが他の会派に相談なしに決めていたそうです。北浜の土地問題で7月16日～18日に7月臨時議会まで開催しているのに、議会運営委員会や会派代表者会議でも報告も議論もなかったのです。

「1強」の最大会派の弊害があらわれた典型例です。高砂市議会の議会改革がまだまだ必要です。「市民が判断するための材料を提供する」という議会本来の役割を果たす議会改革が必要です。

事務所開設 荒井町の事務所を拠点に高砂市を先進自治体へ変えていきます



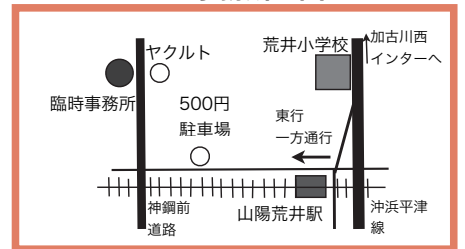
7月27日から井奥まさき臨時事務所（9月までの限定設置）を荒井町御旅（おたび）1-5-6に開設しました。

開設イベントには、長谷川うい

こ・松本なみほ緑の党両共同代表をはじめ、市内の市民活動の仲間、市外から勉強会で一緒の無所属議員や緑の党や他党所属の議員・市民らが駆けつけてくださいました。私からは「エネルギー産業で仕事づくり」「子ども子育て日本一」「市役所・市議会改革」の3つの分野でこの事務所を拠点に高砂市を先進自治体に変えていき

たいという抱負を述べました。（なお、事務所は毎日午前11時～午後4時をめどに開設中です。ぜひお立ちください。）

事務所地図



住所：高砂市荒井町御旅 1-5-6

緑の党

ジェンダー（社会的性差）バイアスのない社会づくりを 緑の党+井奥まさき

東京都議会での自民党の「結婚しろ」「産めないのか」ヤジ事件で明らかになったのは、いまだに固定的な家族観にとらわれている政治家の存在です。年配男性が圧倒的に多い地方議会にはそうした古い体質があります。政治の決定の場に「女性・若者」が少数であり、市民の多様な考えを反映できてい

ないのです。生物的な女性・男性という区別に対して、社会的な性による差別を「ジェンダー（社会的性差）」と言います。個人の努力を無にするような「女性だから」といった偏見（バイアス）が社会に存在します。その結果、日本では他国より政治・経済分野に圧倒的に女性比率が少ないのです。

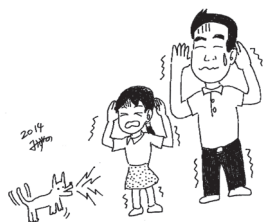
そして、そうした偏見は「若い男性」にも向かいます。「家族を養って一人前」「家族をかえりみず仕事を」といった風潮に圧力を感じている男性も多いと思います。緑の党は「すべての人が自分らしく」生きるための制度設計一クォータ制（割当制）、シングル単位の社会保障一を提案します。

●緑の党の政策を紹介します。

加古川市では6月の市長選挙・市議会議員選挙の結果をうけて最大会派が解体。若手中心の新しい会派も複数新設されました

個人的に家族を愛することと公的な場で固定的な家族観しか認めないことはまったく違います。自民党など年配男性の地方議員の勘違いです。

子育て日記 犬はこわいよね こわがりの父娘にご理解を



自分よりも小さい犬を怖がる娘は小さい時から犬を怖がります。どんなに

より小さい犬じゃないか」とたしなめるのですが。

でも、実は私も犬が苦手

そういう私も実は犬が苦手なんです。小学校の頃に友達の家遊びに行った時にシッポを振ってくれたので頭を撫ぜようと近寄ったら、突然飛びかかれて引っ掻かれた経験があります。それ以来、どうも犬が苦手です。突然吠えらると飛び上がってしまいます。

地域を回っていても犬がいるとその近くのベルが押せないのです。

苦手な私たちのためにご理解を

飼い主の方にはかわいい犬なんだろうが、「怖い」という感覚はどうしようもないのです。失礼があるかもしれませんが、ご理解をお願いします。ちなみに息子は娘の真似をして怖がるふりをしますが、実はけっこう平気みたいです。本当にいろいろですね。

■小さくても「い、犬、犬」と飛び上がって逃げ回ります。散歩で連れてある飼い主さんに悪いくらいのこわがりようです。2、3歳くらいならともかく、小四になった今でもそんな状態なので「あんた

ネウボラ 子ども子育て日本一へ②切れ目のない子ども・子育て支援が必要です

緑の党説明会 八月九日(土) 一五時

子ども政策は複数の担当にわかれており、その連携の悪さが問題になる場合もあります。それを解消するために「子ども課」など統一的な担当窓口をつくるケースや担当が分かれても連携をきちんと行うという先進政策があります。

例えば、妊娠から出産、その後の子育てまで一貫して担当する

フィンランドにある母子相談施設「ネウボラ」をモデルに切れ目のない相談・支援を行なう事業もその一つです。母子手帳の発行も同じ部署が行うといった窓口の一本化もされています。千葉県浦安市などで実践例があります。

埼玉県和光市では一人のコーディネーターが小学校前まで支援

するという仕組みを考え、「乳児の一時あずかり」でリフレッシュできる施設も整えるそう。松本和光市長(兵庫県明石市出身)は「これまで(母親には)産んだ後は『自分でがんばって』としていた部分があったが、産後も十分にケアしていきたい」とのコメントを出しています。見習いたいですね。

多様性 ワークライフバランスや多様性こそ最大の「経営戦略」との話

昨年、滋賀県の前知事、嘉田由紀子さんが塾長の「未来塾」の公開講座で東レの渥美由喜さんのお話を聞きました。興味深かったのは、「ワークライフバランスや多様性は企業にとって単なるコストではない。むしろ中長期的に返ってくるハイリターン投資であり、経営上の戦略として取組むか否かで大きく企業の明暗を分ける」という報告です。

もちろん、国の審議会の方ですし、「要は有能な人材をよりうま

く働かせるための方便じゃないか(特に女性)」という厳しい見方もできます。しかし、その批判を前提にした上でも、ワークライフバランスや多様性を「社会的義務」だけではなく、「中長期的な投資」で経営戦略に位置づけるという発想が素晴らしいと思いました。

彼自身も「発達障害」であり、イクメンであり、親の介護に悩み、子どもさんが難病で入院するという様々な困難に直面しています。それを乗り越えながら、この

主張をしていることがより興味をひきます。主張の中では、「中長期」という点がミソです。短期的には損に決まっているが、「筋肉質の体質を作り、リスクに備える」(井奥が勝手に要約)方が経営上も有利という考えです。

私は福祉も人権も崇高な使命感・義務感「だけ」ではなく、「合理性」のもとで普通の市民が推進するような政策にできないかといつも思っています。その一つのヒントをいただきました。

●このニュース作成者 井奥まさきはこんな人

□井奥まさきプロフィール 1965年生まれ。48才。伊保小学校から淳心学院中・高校をへて岡山大学法学部へ。国際交流団体ピースボートや国会議員秘書などをへて、高砂市議3期11年間。家族は妻と子ども二人。荒井町新浜在住。母は幼稚園教諭、父(故人)は山陽電車勤務。

●井奥まさきの主張

居眠り自治体・高砂市を先進自治体へ

- ・エネルギー産業で仕事づくり
 - ・子ども子育て日本一へ
 - ・市役所も市議会も改革
- そして…市民病院のあり方は市民参加で決める